

アスクレピオン——医療の原点——

Askrepiou — Best Alternative Treatment

奥野長晴

Nagaharu Okuno

滋賀県立大学 名誉教授

環境問題の原点を古代都市のエフェソスで見た。今回は医療の原点をペルガモンのアスクレピオンの遺跡でみる。いずれもトルコ共和国の西端に位置し、ローマ時代に興隆を極めた。そして8世紀には廃墟になってしまった。

この病院アスクレピオンに続く道路の入口には2匹の蛇をレリーフにした門があった。蛇は1年に一回脱皮する。ギリシャ時代以来、蛇は再生のシンボルであった。さらに重要なのは「黄泉の死神（ハデス）はここを通り抜けることはできない」という信仰である。この門を一步くぐると患者は「ああ私は助かったのだ」と安心感を抱くことができた。つまりこの病院にいたる一步一步が患者にとって死から遠のく一步であったのである。この自己暗示が治療の第一歩だった。いわば「病は気から」という概念を医療のトップに据えていた。医者による手当ての始まる前にもう治療が始まっているのだ。

入院患者の一日はまず聖なる泉で全身浴をすることから始まる。(奇跡の治癒薬ルルドの泉の発見は1858年の出来ごとである。今でこそ奇跡の水の嚙矢はルルドになっているが、その本家はここアスクレピオンだといいたくなる。何しろルルドの1200年も前に湧水浴を治療の最前線に据えていたからである。)

湧き水による全身浴の次の治療は約100mの長さの地下道にたたずむことである。地下道には小川が流れていた。その水源はさきに述べた聖なる泉である。暗がりの中でリズムカルな水流の音を聞くうちに、リラクゼーションが訪れる。しだいに、患者は通常意識から変性意識、つまり眠りに落ちる寸前の意識、にかわってゆく。この意識の下では、身体は宇宙と一体化を体験し、神の声を聞き、三途の川が見える。一度これを経験すると、「真実がわかった、もう怖いものなし、矢でも鉄砲でももってこい」という気分になる。この心理状態になると、俗世界における悩みがあほらしくなり、ストレスが嘘のように消えてゆく。ストレスは万病のもと、ストレス開放に勝る妙薬はどこにもない。

その次の治療が泥浴、そしてプールの中で水遊びと続く。アスクレピオン内の通路には砂がまかれていた。患者は裸足で歩くことにより、足裏に刺激を受けることになる。足裏にはつぼが散在している。膏肓に入った病さえも治癒するつぼ(湧泉)は足裏にある。足裏マッサージが万病薬といわれる所以はこれである。この日本版が青竹踏みである。

患者の暇つぶしのために図書館があった。屋外劇場

もあった。ここの劇場の収容人員は3500名にすぎない。当時としては小規模劇場である。しかし特筆すべきは「悲劇はご法度、出し物はすべて喜劇であった」ことである。笑いが疾病の治療の妙薬だと当時すでにわかっていたのだ。これに加えて、ラヂウム温泉、サウナ、全身マッサージ室まで完備していた。病室(居住の場)は円形の2階建ての建物で、一階部分が現存している。患者はここで祈りをささげながら眠りに陥っていった。見た夢を専門家が分析して治療法選択の尺度にしたという。フロイトやユングが出現する1200年も以前に、ここアスクレピオンでは夢分析を医療に取り込んでいたのだ。

近代医学の黎明は病原微生物の発見と感染症予防・治療法の発明から始まった。ジェンナーによる種痘を皮切りにして、コレラ、破傷風、ジフテリア、ペスト、ハンセン氏病、敗血症など疫病が次々克服されていった。感染症防止対策が未熟な19世紀前半までは、出産は女性の命がけの行為だったのである。この意味において、近代医学は人類の福音であることに間違いはない。一方、その結果、「病の原因は人間の外側にある、

それを取り除くのが治療だ、その技術が医学だ、この方法を続ければどのような病でも治療可能」との誤解を与えてしまった。それはアスクレピオン医療の忘却を意味する。しかしながら20世紀が進むにしたがって、感染症対策に卓効のあった方法が通用しない疾病が増えてきた。胃潰瘍、喘息、慢性胃炎、過敏症症候群、関節リュウマチ、などがその数例である。生活習慣病もこの範疇である。これら疾病の原因は人間の内側にある。ストレス性の高い日常生活がこれらの病気を生ずる。平成時代の今日、これらの治療には心療内科が対応する。誤解を受けることを承知で極論すれば、心療内科がとる治療方法はアスクレピオンのそれと50歩100歩である。そんな心療内科でさえ標榜科目の一つに認定されたのは平成8年9月1日のこと、ここに至るまでアスクレピオン以来1400年が経過していた。

アスクレピオン医療を現在形に翻訳すると「温泉」「青竹踏み」「さんぽ」「ヨガ」「気功」「笑い」「水あそび」「エステ」「スポーツ」「暗示と信仰」である。それにわたしは足裏の指圧を加えている。

「無病息災の要諦は1500年前のアスクレピオンにあり」が結論である。

この遺跡の見学はトルコ西端の町イズミールから出るツアー参加が便利。



アスクレピオンに通じる道路